

敵から逃げるために走って息をきらしている

「はぁ...はぁ...はぁ...！」

息を潜める。

「.....っ」

敵がどこか行き、安堵のため息。

「ふう...！」

「何とかまけたわ」

「先を急がないと」

「この沼地を進めば近道だったはず」

歩いていると突如身体が下に落ちて驚いた声。

「きゃ！？」

沼に沈んでいるという状況を理解する

「なにこれ...身体が沈んで...もしかして底なし沼！？」

「こんな所で、嫌だ抜けてよ！」

「んっ...ぐう！.....っはぁ...だ、だめ...抜け出せない」

「はぁ...はぁ...うっ、気持ち悪い」

疲れて浅い息遣い。

「ふう……んう…っ……」

「どうしよう…このままじゃ」

死ぬかも知れないという恐怖から息を荒げている。

「ふうー…ふうー！…うっ！……あっ…ん！…
はあ…はあ！……」

沼に圧迫されて少し苦しい。

「んっ…んむ…はあ……本当にこのままじゃ…
んくっ…死んじゃう…」

「嫌だ...死ぬのは...んっ...！死にたくない...！」

「あっ...胸がもう沈んじゃう」

「そうしたらもう...」

「や、嫌だ！...あっ！」

「ぬ、沼がそこまで...！」

「だめ！嫌だ！死にたくない...！た、助けてえ！」

「誰か！！助けて！！」

□が一瞬沼に沈む。

「誰か！たすけ...うぷっ」

「う...っ.....ぶはあ！...はあ...はあ...」

沼に圧迫されて首を絞められてる感じ。

「ふっ.....んっ.....うう...く、苦しい...」

「誰か...来て...誰でもいいから...お願い...」

再度口が泥に沈む。

「嫌だ...死にたくない...んぐっ...っはあ...ふう...うぷっ...！」

「あっ...ごほっ、ゲホッ...はあ...っはあ.....んぶっ...ぶはっ！...」

息を吸ったり吐いたりを繰り返す。一瞬動揺する声を出す。

「すうー、ふうー、すうー、ふうー、すうー、んんっ！？...ふうー」

先程より深く息を吸ったり吐いたりする。

「すうううううう...ふうううううう...すううううう...ふうううううう...」

心の中の声も発音お願いします。

心の声 (誰か...お願い、助けて...死にたくない)

心の声 (誰か.....ごめんね、リーナ)

沼が口に入り溺れる。

「ブッ！？ゲホッ！ガハッ...！？」

「いやっ、んぶっ、ごほ、ブハッ！」

「んうううううううううっ！むぐっ！.....ご
ふ！」

心の声 (苦しい！...死にたくない！助けて！)

酸欠からか徐々に声が途切れ途切れになる。

「んんっー！むぐ、んむっー！！...んっ...！
んっ...！」

「ムウウウウウ！！！！んむっ...うう、んっ...
む、ぐ.....」

心の声 (死にたくない.....リーナ...リーナ...
リー.....)

「んっ.....く.....むっ.....ガホッ.....」

ここからは違う主人公ですので、シヨタ声でお願いします。

突如身体が下に落ちてびっくりする。

「うわっ!？」

心底最悪そうな感じ。

「な、なんだ?泥にはまったのか.....うわぁスカートが泥だらけだ」

「しょうがない、とりあえず抜け出してってあれ?...動けない」

再度びっくり

「これ、沈んで！」

「もしかして底なし沼！？...っくそ！抜ける！抜けるよ！」

「ダメだ、逆に沈む。でもどうしたら」

「うわっ！！一気に沈んで.....やばっ！？」

身体が一気に沼に沈んで抜け出そうとしている。

「ふっ.....んっっ！！...くっ！っはぁ...はぁ...
動かない、このままじゃ」

「やばっ！□にまで.....んむっ！？んんっ！
ぶはあ！！」

「はあ...！はあ...！だ、誰かいませんか！？
助けて下さい！！！」

「助けて！...ああ！.....ンぶっ！！.....んっ.....
ぶはあ！！.....はあ！...っは！...」

□が沼に沈みかけており、苦しそうな感じ。

「ブハッ！はあ、っは.....誰...か.....ん
むっ！？プハっ、助け.....！」

「はあっ！むぐ.....んんっ、ぶあっ！...ん
んっ、た、助け.....あむっ！？」

「ぶぶっ！んんむ！んぐっ！！」

酸欠で声が出なくなる。

「んっ！……むっ……ぐう……」

「んんっ！……むううう！……」

「んっ……う……むう……」

「むぐっ……ん……むっ……んう……」